

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : University of Wittenberg

留学期間 : 平成 28 年 8 月 15 日 ~ 平成 30 年 5 月 12 日

私の一学期目は、大学や現地での生活に慣れることで毎日大変で安定した生活を送れるようになるのに時間がかかりました。日本の大学でみっちり英語を学んだおかげで言語面では苦労しませんでした。現地学生の会話やアメリカのジョークや価値観を理解するのに苦労しました。また、理想と現実の違いとして、日本にいる時はアメリカ人と友達になることに困難を覚えることはありませんでしたが、日本文化や日本語の授業を取っていない学生と話したり交流を深めたりすることに苦労することもありました。理由としては、日本や世界の情報を知らないことが一番大きいと思いますが、それ以外にアメリカまたはオハイオから出たことのない人が意外にも多く、異文化に興味を示さない人もいるように感じられました。そんな状況から American International Association (AIA) というクラブに入り日本のことや世界のことを発信していました。また、もう一つゴスペルのクラブに入りました。週一回の活動ですが日々の勉強のリフレッシュとなり、時々学校や近くの教会でパフォーマンスすることもありました。私の大学がある場所はあまり賑やかな所はなく週末もキャンパスで過ごすことが多かったので、クラブ活動は空き時間を有効に使える良い方法であることに加え、自分と同じ価値観を持った仲間に出会えたり新たな学びの場になったりしたので、非常にオススメです。

勉強面では特に授業の受け方に苦戦していました。まず英語でノートの取り方がわかりませんでした。一学期目に受けたある授業の教授はとても早口で板書もあまりしてくれませんでした。最初のうち、私はただただ聞き取った単語をノートにメモをしたり教科書を眺めたりしていました。このままでは授業についていけなくなると思い、クラスメイトに助けを求めて一緒に宿題や勉強をするようにしました。また授業前は教科書にざっと目を通しておいたりすぐに復習をしたりなど、勉強方法を改善したおかげで最終的にそのクラスで A をとることができました。

二学期目は大分心にも余裕が出てきてコミュニティサービスやボランティア活動、さらには学校の新聞部でカメラマンとして活動するなどより多くのことに挑戦できた学期でもありました。とはいえ、たまにホームシックにかかったり授業や文化のことで心が沈んだり、二学期目も決して簡単な学期ではありませんでしたが、一学期目と比べると自分自身が変わったせいか、振り返るととても充実していたように思えます。

一年を通して大きく変わったことが 2 つあります。一つ目は留学前と比べて格段に積極的、社交的になったことです。日本にいる時も人と関わる機会は多かったですが、アメリカに来てからアメリカ人が誰とでも自然に会話ができたりコネクションを作っていたりする姿を見て、自分ももっと多くの人の中に入っていったコミュニケーション能力を上げようと思い、クラブや学内外でもイベントに参加して積極的に動いていました。勉強の面でも、最初はなかなかクラスで手を挙げて発言することができなかった私は、自分の中で週に一回

はクラスで発言するというルールを決めてそれを実行していました。英語が母語ではない私にとってネイティブと同じレベルでディスカッションや授業に参加することはある意味挑戦でしたが、勇気を出して口にしてみると意外と簡単にできるようになりました。

二つ目はより多くの角度で物事を見られるようになったことです。留学中に何度も自分とは何かを考えるようになりました。日本にいる時にはあまりそういったことを考える機会はありませんでした。しかしオハイオ州に来て自分がマイノリティであることを実感し、それでも自分がマイノリティであることを忘れる時がしばしばありました。特に私の学校はほとんどが白人の生徒でその次に黒人が多く、日本人を含めアジア人やラテン系の人種はあまりいません。アメリカ大統領選挙前のある日、いつもどおりキャンパス内を歩いていたら後ろから人種差別的な暴言を吐かれた経験があります。その時は状況がつかめず驚きしかありませんでしたが、次第に怒りと悲しみがこみ上げてきてしばらくはそのことばかり考えていました。自分がアジア人や外国人だから、しかも自分のことも知らないのに暴言を吐かれ、本当に納得がいきませんでした。しばらくして自分の気持ちが落ち着いた時、その人のことをかわいそうだなと思うようになりました。異文化を学ぶことや自分と違うバックグラウンドを持った人とつながることはとても素敵なことなのに、その人は自らそのチャンスを逃しています。そして人は見た目だけではわからないし、白人だけがアメリカ人だと思っているかもしれないその人に同情しました。しかしこれは逆にチャンスだなと思いました。できればもう少し色々な人種が混ざった都会の学校に行きたかったですが、自分がこの場所にいるのは意味があってのことで、もしかしたらこの学校や地域の人に日本のことを教えたり自分の経験をシェアしたりするために来たのではないかなと思うようになり、それからは少し明るい気持ちになりました。気持ちの持ち様や考え次第でこれからの生活や人生が変わることに気づき、その後辛いことや納得がいけないことがあっても一つの見方をするのではなく別の角度からも見るようになりました。

この二つの点を通して自分はすごくたくましくなったと思います。そして卒業後社会に出ても状況に応じて適切な処置や対応ができると思います。